

ヘラクレスのような大技で 一気に世の中を元気づけよう

新年を迎えると、今年こそは良い年であるようにと期待している人は多いことだろう。

日本語では「大ナタを振るう」と言う言葉があるが、英語では積年の弊害を一掃することを表すのに「アウゲイアス王の牛舎を掃除する (cleanse the Augean stables)」という成句がある。これには次のような話が伝わっている。

ギリシャ神話最大の英雄ヘラクレスは、ヘラ(ゼウスの妃)の嫉妬から憎しみを買い乱心、妻子を殺す羽目に陥ってしまった。その罪滅ぼしのためにアポロンは彼に十二の難行を命じ、それが成し遂げられれば罪は浄められ、不死身となって神の一柱に加えられるとした。

十二の難行はネメアの獅子退治から始まり、地獄の番犬ケルベロスを捕らえることまで次々と続き、ヘラの妨害にあいながらも成功させた。

その五番目の試練が、アウゲイアス王の牛舎を一日で清掃することであった。エリス(ペロポネソス半島の北西部の地方で、オリンピックをはじめ多くの遺跡がある)の王アウゲイアスは何とも不潔な男で、三千頭の雄牛を飼いながら、三十年もの間その牛を牛舎から一度も



外に出さず、また一度も小屋の掃除をしなかったのである。そのため牛舎は想像を絶する汚さで、まさに肥だめ状態であった。

その牛舎をきれいにするのに、ヘラクレスはアルペオス川(同地方に実在)の流れを逆流させ、川床から持ちあげると牛舎めがけてぶちまけ、その奔流で汚物を流した。この大技でさしもの牛舎もきれいになり、五番目の試練もみごとに完了させたのだ。

これくらいの荒業を振るわないと世の中が変わらないのかもしれない。現代のヘラクレスは登場するか。